

地方で演劇文化を育てる

NPO法人
「鳥の劇場」の事例



鳥の劇場で行われたクリスマス公演「クルミわり人形とねずみの王さま」。フィンランドの人形作家との共同で、人形劇や影絵を取り入れた

NPO法人「鳥の劇場」は、鳥取市鹿野町の廃校になった幼稚園と小学校を劇場として活用し、現代劇の創作や上演のほか、舞台芸術家との交流や演劇の普及活動などを展開する。全国、海外に開かれた創作の拠点を目指している。

首都圏で演劇活動をしていた中島諒人代表理事（47）が2006年、地方に演劇文化を育てようと設立した。廃校舎を活用し、団体と同名の「鳥の劇場」を整備した。

中島代表のもとに県内外から団員が集まり、独自の演劇を創作し上演するなど活動を続け、

2008年に「鳥の演劇祭」を初開催。毎年9月に行う演劇祭は、国内外の優れた演劇が上演されるほか、地域の文化を語るシンポジウムや子ども向けワークショップなど関連企画も充実している。

期間中は鹿野地区の空き家や民家の土間を飲食、雑貨などのショップとして活用。まちづくりに取り組むNPO法人「いんしゅう鹿野まちづくり協議会」が出店者を募るなど役割分担しながら、劇場を中心に地域を周遊してもらう仕組みを築いた。



鳥の劇場を視察し、出演者に声を掛けられる秋篠宮ご夫妻

「まちぶら」要素も奏功し、期間中1万人以上が訪れ、演劇祭観光が盛り上がりつつある。発信や定着が困難とされる地方での演劇文化の発信に手応えを感じている。

活動は地域での演劇の創作、上演にとどまらず、多方面に広がる。国内外での公演、幼児から大学生までを対象としたワークショップやミニ上演、子どもたちに学び創造することの楽しさを伝える「小鳥の学校」などで、全国から注目を集めている。

2014年秋、鳥取市で開かれる「全国障がい者芸術・文化祭」では、障がい者と健常者が一緒になってチェーホフ作「三人姉妹」の舞台を創り上げ、上演する。2013年秋には全国都市緑化祭に参加のため来鳥していた秋篠宮ご夫妻が鳥の劇場での練習を視察し、出演者に手話で声を掛け、激励された。

自然に恵まれた城下町・鹿野で大きな存在感を見せる「鳥の劇場」。廃校舎が演劇文化の「楽園」としてよみがえり、いよいよ輝きを増している。



久松小学校で上演された「どろぼうがっこう」

鳥の劇場で上演された「わが町」であいさつする中島さん



NPO法人 鳥の劇場

- 〈概要〉 ●所在地:鳥取市鹿野町鹿野1812-1
●代表者:中島諒人
●構成員:18人
TEL・FAX 0857-84-3268
MAIL info@birdtheatre.org

代表者のコメント

代表理事 中島諒人さん

現代社会の矛盾や私たちの命について考えてもらえるような芝居をこれからもたくさん作って、多くの皆さんに見てもらいたい。こうした演劇活動を中心に、子どもたちの教育や障がいのある人たちとの演劇の創作などにも積極的に取り組み、元気のある地域づくりに少しでも役立っていければと願っています。

